

# アウトリーチ

## 通信



第2号  
2006年2月15日発行  
神戸女学院大学音楽学部  
アウトリーチ・センター

〒662-8505  
西宮市岡田山4-1  
電話：0798-51-8584

国内の事例に学ぶ

神戸女学院大学音楽学部教授  
アウトリーチ・センター・ディレクター

津上 智実

「音楽によるアウトリーチ」は音楽学部の学生に、地域での音楽活動を豊かに繰り広げることが出来る力をつけて世の中に送り出そうとする教育プロジェクトです。そのために、子どもたちやクラシックのコンサートになじみの薄い人々にも関心をもつて集中して音楽を聴いてもらうことができるよう、いろいろな工夫をすることが求められます。

このような工夫は、アウトリーチの先進国と言われるアメリカやイギリス

スに限らず、国内のさまざまな演奏家たちによってもいねいに積み上げられてきています。この一年、できる限り見学してきた中から、すてきな例を二つ、オーケストラの取組から紹介したいと思います。

まず日本フィルハーモニー交響楽団の「日本フィル夏休みコンサート」。一九七五年に開始され、すでに三十年以上の歴史を持っています。毎回、第一部でオーケストラの本領発揮の曲を演奏し、第二部でその年のテーマを展開（昨夏はバレエとのコラボレーション）、第三部が「みんなであうたおう」という構成。豊かなノウハウに裏打ちされた隙のない進行で子どもたちをひきつけ、最後にたっぷり歌って客席も大満足。プレイベントも三種用意され、終演後には出演者との交流の場も

設けられて、立体的な取組となっています。

一方、東京交響楽団&サントリールールの「こども定期演奏会」（年四回）はちょうど四年目を終えたところ。指揮者のお話で進行し、音楽的なテーマについて部分演奏によって耳で確認しながら分かってもらうという構成は、ボストン交響楽団のユース・ファミリーコンサートと同じですが、実はボストンの先例（十九世紀末からやっている！）を越える工夫が盛り込まれています。チラシの絵も、最初に演奏されるテーマ曲も子どもたちから募ったもの。入選した旋律をプロのアレンジャーが編曲し、フル・オーケストラで演奏します。途中の一曲では、オーデイションで選ばれた小中学生五人がオーケストラに入って一緒に演

2005年11月

ホームページができました！



「音楽によるアウトリーチ」のホームページを開設しました。演奏派遣依頼用紙のダウンロードなどもできますので、どうぞご利用ください♪今後の予定も順次掲載していきます！



<http://www.kobe-c.ac.jp/musicdp/outreach/>

奏し、内一人はコンサートマスターとしてチューニングから采配を振ります。プログラムの漢字にはすべてルビが振られ、寄せられた質問に対する回答がていねいに綴られています。子どもたちをお客さんに終わらせず、コンサートに直接コミットさせることを目指して本気でアイディアを練り、手間暇かけて実現しているその姿勢には思わず頭が下がりました。

そのつもりで見回すと、きつと身近なところでもすてきな取組がいろいろと展開されているはず。皆さんもちょっとアンテナを伸ばして、周りに広く目を向けてみてください！

# 子どものための コンサート・シリーズ

## 第十三回

### クリスマス・コンサート

十二月十日(土)、本学講堂にて「子どものためのクリスマス・コンサート」(子どものためのコンサート・シリーズ第十三回)を開催しました(第一部・十三時半、第二部・十六時半、来場千百三十八名)。

「音楽によるアウトリーチ」既修生を含む六名が出演、各楽器のソロをはじめ、三人によるピアノ六手連弾、歌とピアノ、歌とオルガン、全楽器でのアンサンブルなど多彩な編成でクリスマス・コンサートを華やかに



行いました(声楽・山田愛子/ピアノ

にサンタ・クロースが突然登場したの

ノ・松川峰子(企画)、西脇恭子、服部愛/ハープ・寺澤彩/オルガン・早野紗矢香)。

演奏曲は、《ジングル・ベル》や《サンタが街へやってきた》などクリスマスにちなむ

曲と、W. A. モーツアルトの《キラキラ星変奏曲》やJ. S. バッハ

の《主よ、人の望

みの喜びよ》など馴染みのクラシッ

クをメインに、各自の専門を生かした曲を一曲ずつ配しました。途中、子どもたちを舞台上げ、トーン・チャイムの体験と《きらきら星》の演奏をしてもらいました。また曲に合わせて手拍子や賛美歌を歌うなど、聴衆参加の場面をたくさん設けました。客席



にはみんなビックリ!終演後には体験コーナーを設け、子どもたちに楽器(ハープ、トーン・チャイム、オルガン)に触れてもらいました。

お客さまからは「親が思っていた以上に子どもが感動して驚いた」「はしゃぐだけのクリスマスではなく、神聖な気持ちになった」「満足度の高いコンサートだった」といった声を頂きました。

出演者一同、子どもたちに分かってもらうための言葉選びに苦労しましたが、当日は素直で反応の良なお客様のおかげで練習時よりもずっと気分が乗り、楽しくコンサートを進めることができました。音楽を通じて多くの子どもたちと心を通わすことができたのは、出演者にとっても新鮮な体験で、今後の音楽活動への励みとなりました。

裏方を支えるスタッフも毎回学生が担当します。事前のワークショップ「舞台照明の基本と可能性」(五ペー

ジ参照)で宮川博喜氏に教わった照明技術を実践したり、新規購入したインカムを各セクションのスタッフ代表者が所持し、お互いに連絡を取り合いながらコンサートを進行するなど、色々な面で進展がありました。今回は今までになく多数の下級生が参加して熱心に各自の責任を果たしてくれて、まさに出演者とスタッフが丸くなって作り上げたクリスマス・コンサートとなりました。

(松川峰子、草島玲奈・記)



## アウトリーチ実習報告

### あおぞら幼稚園

十一月二十二日（火）、西宮市立子育て総合センター附属あおぞら幼稚園（所長・古岡俊之氏／園長・家門淑恵氏）にて「グランド・ハーブとアイリッシュ・ハーブで贈る音楽のひととき」と題した演奏を行いました（ハーブ・福田知未、津島恵美）。



グランド・ハーブ（大型）のソロに、アイリッシュ・ハーブ（中型）とのアンサンブルを交えて、トウルニエヤブオーレのハーブ作品、また世界の民謡と《エーデルワイス》などのミュージ

カル曲とのメドレーを披露しました。お客様もハーブの音色に惹きこまれてじっと耳を傾けて下さいました。出演した履修生からは「多くの方に喜んでもらえてうれしかった。子どもたちが興味津々だったので、今回は子どもたちと一緒にやってみよう」「選曲がむずかしかったが、新しい曲目の勉強もできてよかった」とのこと。よい機会を与えられたことに感謝します。

（寺澤彩、松川峰子・記）

### 甲東デイサービス・センター

十二月十三日（火）、十一時〜十一時半、西宮市立甲東デイサービス・センター（所長・市原博氏）にてクリスマス・コンサートを行いました（ソプラノ・南香代子、長谷川裕美子／キーボード・河戸茉悠）。曲はクリスマス

の季節にちなんで《あらの野の果てに》《ひいらぎ飾ろう》《ホワイト・クリスマス》など。ソプラノやピアノのソロ、二重唱の他、最後には施設の利用

者の皆様にも一緒に《もろびとこざりて》《きよしこの夜》を歌って頂きました。演奏終了後、何度もアンコールの声が沸き起こるなど、和やかな雰囲気となりました。

施設のコンサートのようになりました。



方からは「きれいな歌声を間近で聴くことができ感動」「ドレスアップしていたのも本当の舞台を見ているようで美しくよかった」との声を頂きました。送迎をして下さった職員の方々に心よりお礼申し上げます。

（寺澤彩、松川峰子・記）

## 特色GPFフォーラム

十一月二十三日（水）、文部科学省の特色GPFフォーラム京都会場（国立京都国際会館）でポスター発表を行いました。当日は津上先生、樋口さん、早野の三人が参加。十月の横浜会場と同じく、今年度の特色GPFに採択された大学、短期大学四十七校が参集し、各大学の取り組みについて資料を手に入れたり、担当者と直接話せるようになっていました。今回は京都ということもあって来場者が非常に多く、用意した資料がほとんどなくなるほどでした。他大学と交流を深めるよい機会でした。

（早野紗矢香・記）

### 特色ある大学支援プログラム

（特色GPF）とは

高等教育の改善に資する種々の取り組みのうち、特色ある優れたものを選定し、選定された事例を広く社会に情報提供するとともに、財政支援を行うことにより、国公立大学を通じ、教育改善の取組について、各大学及び教員のインセンティブになるとともに、他大学の取組の参考になり、高等教育の活性化が促進されることを目的とするものです。

## 講演会シリーズ

### 第二回 仲道郁代氏

#### 「私の音楽活動を

#### 支えるもの」

十一月十六日（水）、ソリストとして国内外で活躍する傍ら、子どものためのプロジェクトやクラシック音楽になじみのない大人のためのコンサートを活発に展開していらつしやるピアニストの仲道郁代氏をお招きし

て、音楽で何が大切か、何ができるのかについてお話を伺いました（音楽館ホール）。

音楽で大切なのはイメージを豊かに持つこと、イメージを一杯のせて伝えること、音から感じることで、想像すること。

ドビュッシーの《月の光》、ベートーヴェンの《ワルトシュタイン》、田中カレンの《星の動物たち》などを例に、音が広げるイメージの世界を生き生きと多彩に繰り広げて、音楽の力と可能性を実感させて下さい



られました。

（津上智実・記）

ました。心をほぐすには、体をほぐすことからとみんなで体操したり、ダンスと脱力したり、楽しい一時もありました。音楽は人間の三つの欲求「向上する喜び」「表現する喜び」「自己実現する喜び」を叶えてくれるもので、これができるのは幸せなことというお話も心に残りました。

参加者からは「『好きにイメージしていいのよ』という言葉でとても楽になりました」「仲道さんは音楽を通して多くの人が楽しく幸せに生きられるように、日々、土木工事をされているように感じました。いつもナチュラルな感性を忘れずに音楽と関わりながら生きていきたいと思いました」といった声が寄せ



ていいのよ』という言葉でとても楽になりました」「仲道さんは音楽を通して多くの人が楽しく

### 第三回 田村朋子・信子氏

#### 「リトミックの理論と実践」

一月十七日（火）、田村朋子氏（ダルクローズ・サティフィケイト取得、本学英文学科非常勤講師）と田村信子氏（全日本リトミック音楽教育研究会大阪支部支部長）の二人をお招きして、リトミックの理論と実践についてご指導頂きました（音楽館ホール）。

「リトミック」はスイスの作曲家エミール・ジャック・ダルクローズによって考案されたユニークな音楽教育法で、身体の活動を通して内的な音感を養うことを目指したものです。

リトミックには五つのアクティビティ（フォロー、即時反応、置換ゲーム、完全カノン、プラステティックアニメ）があり、今回はその中から、拍子に合わせて歩いたり手拍子やボールをまわしたりなど音楽を追いかける運動（フォロー）、音楽や言葉による合図に従う運動（即時反応）、最後に



歌とリズムを組み合わせたアクティビティを体験しました。受講者は慣れない運動に戸惑いながらも楽しそうに動いていました。

学生からは「以前からリトミックに興味があった」「難しいかと思っていたが親しみやすかった」「音そのものを身体と動きで表すのがおもしろい」「将来子どもに音楽を教える時に活用した



い」などの声が聞かれました。活発に質問が出た他、来年度新規開講されるリトミックの授業を履修したいとの希望者も多く、今後の発展が楽しみです。

（寺澤彩・記）

## ワークショップ

### 第一回 宮川博喜氏

#### 「舞台照明の基本と可能性」

十二月二日（金）、

兵庫県立芸術文化センター照明専門員の宮川博喜氏をお招きして、舞台照明のお話と機材操作の指導を頂きました（講堂）。

本学では「子ども

のためのコンサート」などを開催していますが、毎回、学生や卒業生が裏方を担当します。照明については素人での専門の知識がないため、今回は専門員のお話を伺える最初の貴重な機会となりました。

ワークショップ前半は、機材の理解、セロファンを使い方、スポットの照準を合わせるための工夫など。具体的な知識に加えて機材操作の際の安全確



保についてもご教示頂きました。

後半は十二月十日の「子どものための

クリスマス・コンサート」に向けて、照明プランをもとに実演指導。観客に見えやすいように照らすだけでなく、

角度を調整して演奏者の手元を明るく照らすなどの工夫も施されました。照明ひとつで舞台の雰囲気が大きく変わるのを目の当たりにし、光の大切さを改めて感じました。



今後はこの経験をもとに、よりよい舞台作りをめざしたいと思います。

（松川峰子・記）

### 第二回 北村正治氏

#### 「スクエア・ピアノの

#### 構造と音楽」

十二月十六日（金）、北村正治氏（松

尾楽器商会ピアノ技術部調律師）をお招きしてスクエア・ピアノについてお話を伺いました（図書館本館ロビー）。

スクエア・ピアノは別名テーブル・ピアノともいい、十九世紀中頃にアップライト・ピアノが開発されるまで盛んに使われていました。楽器の構造はもちろん、ピアノの変遷史や、このピアノが使われていた当時のアメリカ音楽の様子など、様々なお話を頂きました。

履修生の実演や楽器の内部構造の公開もあり、普段なかなか体験できない音や光景に参加者は興味津々。参加学生からは「楽器に親しみが湧いた。自分が弾いて感じるスクエア・ピアノの違和感や、音と鍵盤のタ



ッチの違いも、理由を知ると面白さとして捉えることができた」「鍵盤を連打するのがむずかしい理由が分かった。内部まで見て構造がよく分かった」などの感想が聞かれました。

他に中村健先生や三浦欣也先生など教職員の参加があったことを付記します。

（寺澤彩・記）

## ゲスト・ティーチャー

十二月二日、九日（金）の両日、ゲスト・ティーチャーに松原美保先生（宝塚市立すみれが丘小学校音楽教諭）をお迎えして、小学生対象の授業案の立て方について指導を頂きました（音楽館合奏室）。

履修生は各々工夫を凝らした授業案を披露し、松原先生からアドヴァイスを頂きました。一つの授業に欲張ってたくさんテーマを入れない、曲は一つでもよい、繰り返しながら理解を深めていくなどのアドヴァイスがありました。

小学校の現場に立つ先生からご指導を受ける貴重な機会で、学生からは「思いも寄らないアイデアをたくさん教えて頂いた」「メンバー構成を活かす内容を考える大切さを学んだ」「皆と一つの

授業案を作り上げるのは楽しかった。子供たちが何を求めているのかが分かった」などの声が聞かれました。  
（寺澤彩・記）



## 履修生紹介

### ～ 四回生から後輩たちへメッセージ ～

三回生の後期からこれまでの一年半

アウトリーチの授業を履修してきた四回生八名、

その一人一人から後輩たちへのメッセージ！

（カッコ内は実習歴）



伊規須 彩花（ピアノ）

四回生はアウトリーチに限らず色々な事で時間に追われて大変ですが、得るものも多いと思うので頑張ってください。今までほとんどお話ししたことがない人と話す機会が増えたり、人とのつながりを感じられる授業だと思えます。  
（七タコンサート、神戸市立博物館）



金沢 彩子（ピアノ）

アウトリーチを履修して、音楽が必要とされている場所に必ずしも相応しい音楽が届いていない現状を知りました。場に見合った、そして自分が伝えたいプログラムを伝えられるのがこの授業の魅力です。頑張ってください！

（神戸女学院中高部、神戸市立博物館）



河戸 茉悠（ピアノ）

今までしたことのない準備やコンサートの構成は大変かと思うけれど、お客さんの立場になって考え



増田 みのり（フルート）

る事はとても大切なので、たくさん悩んで素敵な舞台にして下さい。きっと大きな達成感が得られるはずですよ。頑張ってください！  
（神戸市立博物館、スペシャル・コンサート、甲東デイサービス・センター）

自分達で企画した演奏会を開いたり、時には裏方スタッフにまわったりと、色々な角度から音楽を学

び新しい音楽の魅力を知りました。楽ではありませんが常にやり甲斐を感じられて、自分の音楽に対する視野がとてもひろがりました。

（尼崎市立上坂部小学校、七タコンサート、西宮市立子育て総合センター）



南 香代子（声楽）

この授業は卒業後の演奏場所を自分の力で確保できるだけの知識を与えてくれます。聴衆者に合わせた音楽を提供する力がつきます。ただ、忙しくてやりくりが大変です。小さい演奏会でも（小学校や介護施設など）近づいてくればやはり準



田中 麻衣子 (打楽器)

アウトリーチを履修すると格段に忙しくなりますが、社会に出てからはも



多田 安希子 (ピアノ)

諸々のことに手が回らずに、友人や先生にご迷惑をかけたのですが、演奏するために必要なものを知るきっかけともなりました。幅広い層の方々とも出会

い、とても勉強になりました。(和歌山大学教育学部附属小学校、七タコンサート、神戸市立博物館)

備で忙しくなります。教職をとつていれば尚更です。でも、この授業は演奏家として生きていきたいと思っ

つと忙しくなるかもしれせん。「学生だから」と怖じ気づかず「学生である今だからこそ出来る」または「今しか出来ない」という前向きな気持ちでアウトリーチに臨んでほしいです。ご健闘をお祈りします!

(和歌山大学教育学部附属小学校、七タコンサート、神戸女学院中高部)

谷村 早聡子 (ピアノ)



私はこの一年半で大小に関わらず、実際に自分で経験したり創りあげることとで、音楽に対する新しい視野が広がりました。皆さんにも色々な方達と交流し、様々な形で音楽の輪を広げる楽しさを肌で感じて欲しいです。

(神戸市立博物館、スペシャル・コンサート)



～ 三回生のアウトリーチ履修生 ～

- 坂原由佳 (文学部総合文化学科) / 赤松亜美 (ピアノ) / 安東菜央 (声楽) / 海老原ゆかり (声楽) / 藤村真代 (ピアノ) / 福田知未 (ハーブ) / 橋本麻衣 (打楽器) / 東良奈津美 (ピアノ) / 今井さつき (フルート) / 城沙織 (ピアノ) / 川勝さちこ (オルガン) / 大西沙季 (ヴァイオリン) / 三村祥子 (ピアノ) / 中川寛美 (ピアノ) / 西村遥子 (ピアノ) / 信貴香苗 (ピアノ) / 嶋田友里恵 (声楽) / 白木千裕 (ピアノ) / 白坂亜紀 (ピアノ) / 周防彩子 (声楽) / 高林保子 (声楽) / 高橋紗代 (ピアノ) / 谷優似子 (ピアノ) / 谷田奈央 (声楽) / 津島恵美 (ハーブ) / 上田朝子 (ヴァイオリン) / 上原梨絵 (フルート) / 山上綾華 (フルート)



\*\*\*\*\*

## 今年度（2005年度）の実習歴（2006年1月31日現在）

### ◎アウトリーチ

5月20日：和歌山大学教育学部附属小学校アウトリーチ  
 6月17日：尼崎市立上坂部小学校アウトリーチ  
 9月27日：神戸女学院中高部アウトリーチ  
 10月15日：神戸市立博物館アウトリーチ  
 10月19日：西宮市立子育て総合センターアウトリーチ  
 11月22日：西宮市立あおぞら幼稚園アウトリーチ  
 12月13日：甲東デイサービス・センターアウトリーチ

### ◎子どものためのコンサート・シリーズ

7月2日：「子どものためのセタコンサート」  
 10月22日：「子どものためのスペシャル・コンサート」  
 12月10日：「子どものためのクリスマス・コンサート」

\*\*\*\*\*

## ♪ 音楽をお届けします ♪

### 「音楽によるアウトリーチ」

「アウトリーチ」とは、「一歩踏み出すこと」「手をさしのべること」。

大学やホールといった従来の枠にとられずに、社会のさまざまな場にてききな音楽のプログラムをお届けします。

♪ **小中学校へ**：総合的学習支援プログラムとして、  
子どものための楽しい体験学習を！

♪ **病院や美術館へ**：催しの趣旨に沿った手作りの音楽  
プログラムを、心をこめてお届けします。

お問い合わせは…

神戸女学院大学音楽学部 アウトリーチ・センター

〒662-8505 西宮市岡田山 4-1 TEL & FAX : 0798-51-8584

E-mail : outreach@mail.kobe-c.ac.jp http://www.kobe-c.ac.jp/musicdp/outreach/

## ♪ 今後の予定 ♪

2月8日（水）

### 《クリエイティブ・コミュニケーション・ワークショップ》

講師：マイケル・スペンサー

（ヴァイオリン奏者、ファシリテーター、元英国ロイヤル・オペラ・エデュケーション・マネージャー）

原田クマ

（ベース奏者、ファシリテーター）

協力：雲雀丘学園小学校 5年生 4クラス

2月末～3月初め

宝塚市立すみれが丘小学校アウトリーチ（3年生 3クラス）

3月7日～15日

英国アウトリーチ活動視察

## ♪ 編集後記 ♪

アウトリーチ・センター開室から早4ヶ月。濃い4ヶ月でした。（早野）

コンサートに講演会にワークショップに…と、いつも行事が盛りだくさん！これからも楽しみです☆（寺澤）

今回は裏方スタッフ業務の他、クリスマス・コンサートの企画、出演など盛り沢山でした。やりがいたっぷりです♪（松川）

センター開設からすでに4ヶ月！時間がたつのが早いこと…。（中村）

「子どものためのコンサート」に初めてスタッフとして参加しました。学生さんたちのテキパキ動く姿に感激！（革島）

一段と充実したクリスマス・コンサートになって感謝！目下、来年度のよりよい活動をめざして準備中。ご期待下さい！（津上）